

多自然川づくり取組事例

タイトル : 淀川汽水域における干潟再生の取組について	
水系 / 河川名 : 淀川水系淀川	河川分類 : 大河川
河川の流域面積 : 807	整備計画流量 : 10800m ³ /s
セグメント : 3	
事業 : 環境整備	事業開始年度 : 平成26年度
目標設定 : 定性的	段階 : C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な) : 干潟、浅場の保全・再生・創出	
工法(主な) : 置土(土砂投入)	
配慮事項(主な) : その他	

背景・課題、目標設定

<背景>

かつての淀川下流域は、昭和26年には約180万㎡もの面積の広大な干潟があり、底生動物、鳥類、魚類など様々な生態系が形成され、生物多様性の観点からも重要な場所となっていた。

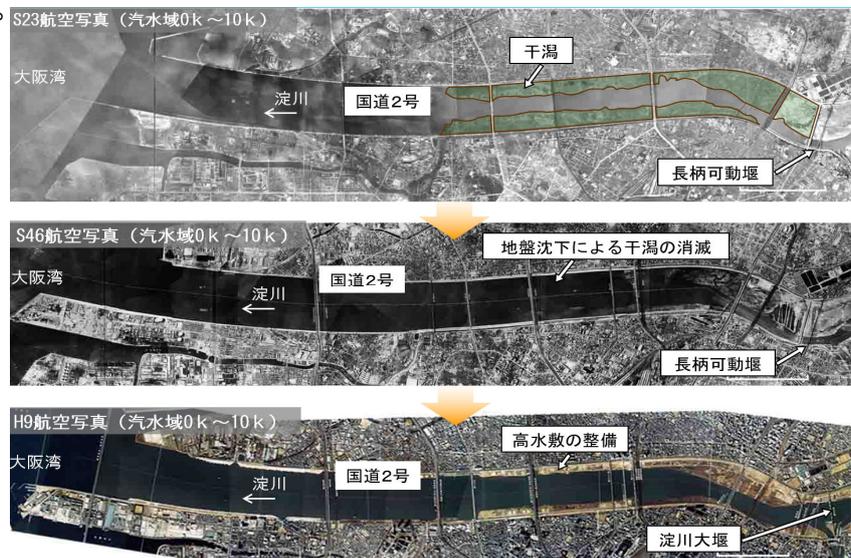
しかし、地下水のくみ上げによる地盤沈下や大阪湾岸付近は埋め立てによって干潟が消失し、また高水敷の整備によって干潟が減少した。その他、長柄可動堰が淀川大堰に改修され上流からの土砂の流入が減ったために、平成10年には約50万㎡まで面積が減少した。現状のまま干潟面積が減少すると、生物の生息場の減少が生じる恐れがある。

<課題>

干潟面積減少による生物の生息場の喪失

<目標>

昭和20年代の干潟面積の回復し、生物の生息場を創出する



取組内容・対策例(1/2)

- ・阪神なんば線の架替事業に伴う工事で発生した浚渫土を、工事箇所から台船で土砂を淀川左岸0.0k付近まで運搬して埋戻しを行い、干潟再生試験に活用。
- ・令和元年度は、8月から10月にかけて土砂投入を実施。
- ・令和2年度は、11月から令和3年3月にかけて土砂投入を実施。令和元年度の施工箇所及びその河口側に向かって土砂を投入。

<試験置き土で得られた知見>

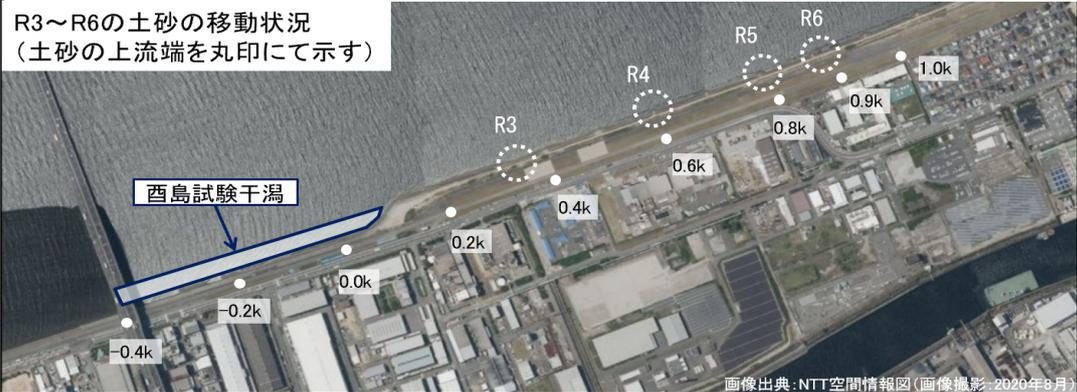
北西風による波浪の影響で、投入した土砂が上流側や消波ブロックの隙間へ運ばれている。

●浚渫箇所と西島試験干潟 位置図



取組内容・対策例(2/2)

・土砂の景観調査や深淺測量及びUAVの写真測量、モニタリング調査(底生動物・魚類・底質)を実施



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<アピールポイント>

生物のモニタリング調査結果については、マハゼなどの魚類の他、スナガニやヤマトシジミ、マゴチ、シロギスなど干潟に特徴的な種の累積確認数が増えてきている。また、シロギス、マゴチは稚魚も確認されたため、稚魚の生息場にもなっていることが示唆される。そのため、試験干潟での生物多様性が高くなっていることや生息環境が安定していることが窺える。

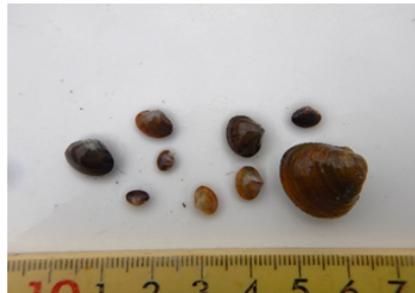
<今後の対応>

調査結果を元に、今後の西島試験干潟の追加土砂投入箇所や土砂の量の選定を検討し、他の投入箇所や投入量の検討材料として活用する。また、上流側へ移動した土砂の粒径の調査も行う。

令和7年度 春季調査:マハゼ



令和6年度 春季調査:ヤマトシジミ



令和6年度 春季調査:マゴチ若魚



令和6年度 夏季調査:マゴチ稚魚

備考